

[ 取組主体 ]	
名 称	大迫町森林組合
取組の範囲	大迫町
開 始 年 度	平成 15 年度
[ 補助事業 ]	
交 付 主 体	市町村
補助事業名	大迫町バイオマスエネルギー利用促進事業
計 画 名	木質資源利用ボイラー

## 1 取組目的と概要

### ( 目的 )

製材工場の製材工程で出る端材を燃料として、簡易木材乾燥施設で利用することによって、森林資源の有効活用を図る。

### ( 概要 )

大迫町森林組合の製材工場では、平成 16 年 3 月から木材乾燥施設で製材工場から出る端材を燃料として温風を発生させ、木材乾燥に利用している。

同施設は、面積 180 m<sup>2</sup>、鉄骨製のソーラーハウス乾燥で、小規模産業廃棄物焼却用のボイラー（1 日当たり約 14 m<sup>3</sup> の端材が燃焼可能）に端材を使用して温風を発生させ、補助暖房を行っている。稼働後の 10 カ月の端材利用量は約 150 m<sup>3</sup> で、1 日平均約 1 m<sup>3</sup> の端材を燃焼している。

また、産業廃棄物焼却用ボイラーを木材燃焼に流用しているため、有害ガス発生対策などの技術支援を岩手県の林業技術センターから受け、排気の成分検査は保健所の検査を受けてダイオキシンなどの有毒ガスが発生しないシステムとなっている。



< - 簡易木材乾燥施設の外觀 - >

## 2 取組の効果

### ( 効果 )

従来、同製材工場から出る端材と樹皮は、年間約 700 ~ 800 m<sup>3</sup> にのぼり、工場では利用されず、希望者に引き取ってもらうなどしていたが、工場内で端材を利用することによって廃棄にかかる労力軽減や、木材乾燥施設に係る燃料代の軽減につながっている。

また、端材を木材乾燥施設で利用することにより、未利用の森林資源の有効活用を図ることができるようになった。

## 3 現在の課題と今後の展開方向

### ( 課題 )

現在、木材乾燥施設ボイラーで燃やしているのは端材だけである。樹皮を木材乾燥施設で利用することも考えたが、ボイラーの投入口が小さく人手による投入のため労力がかかりすぎることから畜産農家等へ販売している。

### ( 展開方向 )

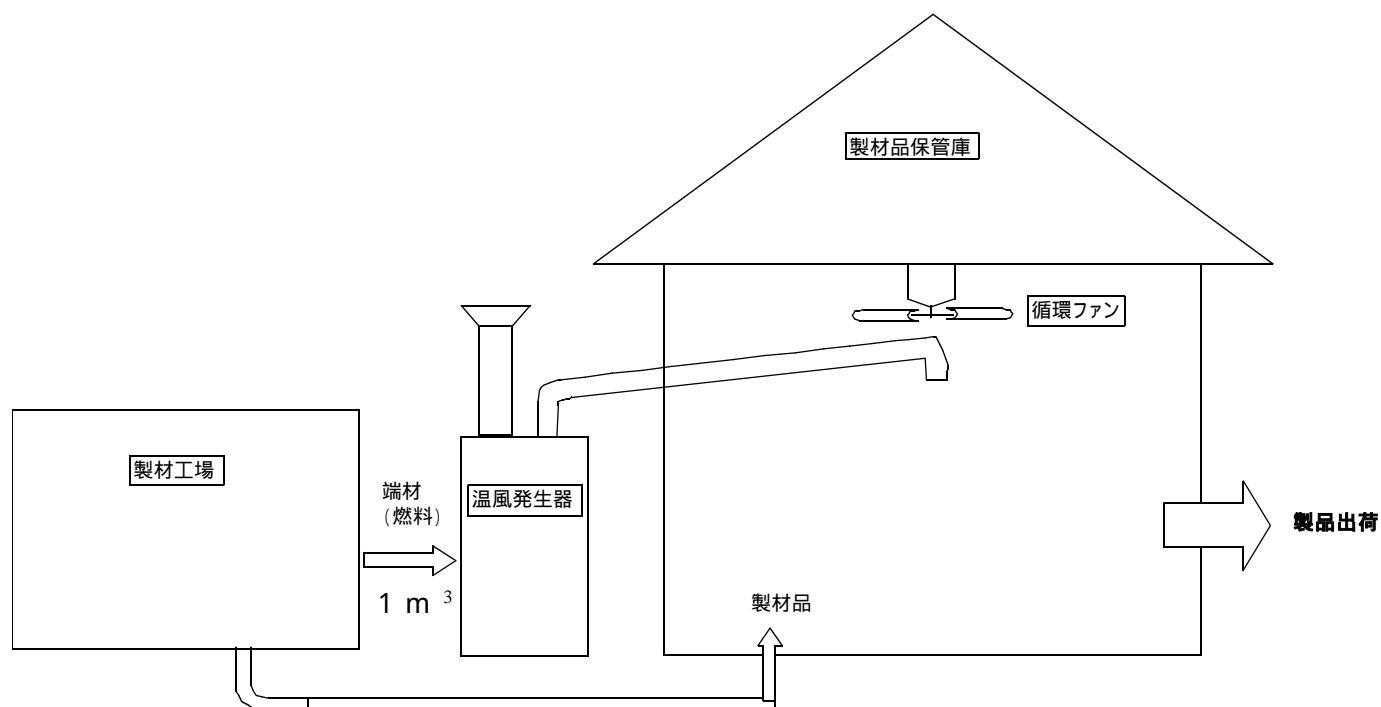
樹皮は、木材乾燥施設での利用は難しいことから、粉碎機を設備するなどし、今後の利用方法を検討することとしている。

また、木材乾燥施設はソーラーハウス乾燥の補助的な暖房施設となっているが、乾燥効果は天候や気温で差があることから、今後、補助暖房の効果を試験により明らかにすることとしている。

「製材工場端材を利用した簡易木材乾燥施設」の施設概要

施設名称	木質バイオマスエネルギー供給施設	設置主体	大迫町森林組合
運営主体	大迫町森林組合	施設整備費	3,131千円
主な設備	製材品製品保管庫 温風発生器	稼働状況	1日の稼働時間 : 8時間 竣工後の稼働日数 : 150日 (4月～11月)

【施設のシステムフロー】



バイオマスの回収と再利用の流れ

バイオマス名	発生源	距離	発生量	収集・運搬方法	施設処理能力
製材端材	森林組合製材工場	0.1km	150m³ (4～11月)	敷地内	1 m³/日
再生バイオマス名	生産量	再生バイオマスの利活用先			
熱	不明	木材乾燥			